

今を未来に

6年生卒業証書授与式の練習が本格的になっています。

来週は、いよいよ6年生61名の卒業式です。先週の金曜日は、集中的に6年生は練習を行い、今週に入ってから在校生代表として5年生51名が練習に入ってくれています。先輩である6年生の姿を見ながら、最高学年になる気持ちを高めている5年生の気持ちは、練習初日から卒業生に負けない大きな声に現れていました。きっとその気持ちは6年生にも伝わっていると思います。



水曜日の練習では、卒業証書授与の練習があり、私が直接渡す形で、6年生の練習を行いました。今年の6年生は、流れをつかむのは早かったようで、数回しか練習していないにも関わらず、しっかりと卒業証書を受け取ることができていました。ただ、動きのめりはりについては、同級生のなかまの中でカッコいいあと感じる子が何人かいるので、その子の動きを真似られるといいというアドバイスをおくりました。また、担任の先生からは、自信を持って、会場にいる全ての方に自分の思いが伝わるような大きな声で、はっきりと自分の言葉が言えるようにと、指導がありました。中には、休み時間に個人的に指導を受けた子もいましたが、自分から中央にあるステージまでの歩幅と歩数を確認している子もいました。

6年生から登校班のバトンタッチがありました。

保護者の皆さんもご存知かとは思いますが、11日(月)5限目の地区別児童会で、登校班の引継ぎがありました。この1年間、6年生を中心にして、安全に登下校ができるようにと組んでいただいた登校班から、新1年生が入ってきた事を考えて地区委員のみなさんに組んでいただいた新しい登校班へのバトンタッチが行われました。



まきのき台の班が14班から13班へと1班減った事(児童数減少に伴って)と市場町の班が4班から3班に減った事(5年生の人数に合わせたため)、中瀬古のある班が本村まで行かずに、まきのき台・小牧南の子どもたちが通る農道を利用するなどの変更はありましたが、次年度の保々小学校の児童数は、ほぼ今年度と変わらないということもあって、ほぼ今年通りの班の数と通学路で組んでいただけそうです。

12日の朝から5年生を中心とした登校班で集団登校をしています。今年の5年生は他の学年に比べると10名ほど少ないので、その分4年生や3年生で班長・副班長になった子もいると聞いています。12日の朝、登校指導に出ると、先頭を歩く班長さんの恥ずかしそうな表情と、6年生の解放感を感じさせる表情の違いが印象的でした。これから1年間、新1年生が入って来ても、班長・副班長を中心にして、安全に登下校ができることを願っています。

AEDボックス設置のお知らせ

先日、教育委員会からの通知をお渡ししましたが、市内の小中学校で校舎の外にAEDボックスが設置され、今まで児童・生徒の命を最優先に考えて各学校に配置されていたAEDを、そのボックスの中に24時間入れておくことになりました。小中学校の校長会としては、毎年、「AEDがあってよかった。」「子どもの命が救われた。」という事が、市内のどこかの学校で起っていることから、2台目のAEDが配置されてからの対応でいいのではないかと、もし2台目のAEDがあればボックスも設置場所が変わるのではないかと（保々小であれば、本来体育館入口に設置する方がよいと思われます。雨風と直射日光を防げることと、社会体育の多くが体育館で行っていることから）といった視点で、今回の対応については納得できないという意志を示してきました。それも承知の上での教育委員会からの指示を受けての対応であったことを、ご理解ください。



「もっと目立つところになぜ設置をしないのか」（→雨風と直射日光が防げて、毎日職員が点検をしなければならないことから、職員玄関横が最も適した場所と判断しました。）「社会体育でと言うなら、体育館入口に設置して欲しかった」（→運動場でもAEDを必要とする場合があります。また、教室でAEDを必要とする事案が起こった場合、インターホンで職員室にAEDを持って来てほしいという連絡が入ることから、職員室から遠い体育館入口には設置できませんでした。盗難防止のためふたを開けるとブザーが鳴るため、その音が職員室に聞こえなければなりません。）と言ったご意見・ご質問が、すでに学校に寄せられていますが、上記の（ ）内に示したようなことがありましたので、現在の所に設置させていただいたことをご理解ください。

引き続き、各小中学校に2台目のAEDが設置されるよう、そして、子どもの命を第1に考えてこうした計画を進めてほしいという意見を、伝えていきたいと考えています。

体育館に、電話ボックス設置のお知らせ

小学校は大地震の時などは、保々地区の避難所になる予定です。今年の4年生は総合学習で体育館が避難所になった時には、どうすればみんなが安心して避難することができるか、自分たちにもできることがあるのではないかと、考えてきました。

また、東日本大震災の被害が大きかった東北地方・関東北部では、再び大きな地震が起きる確率が、私たちの想像をこえた数値として先日発表されました。その発生確率の高さから、改めてこの日本はいつ大震災が起こってもおかしくない国なんだなあと思いました。四日市市では、こうした市民のみなさんの不安が少しでも解消されればということで、防災倉庫の中身を設置場所のニーズも考えて整備され、四日市市北部の拠点として、四日市東インターの近くに、大きな防災倉庫が設置されたりしてきました。さらに、今回は避難所となる小中学校体育館の入り口に、災害時に利用できる公衆電話が設置されることになりました。順次に、電話回線が引かれ、電話本体が設置される予定と聞いています。

